

# 四半期報告書

(第49期第2四半期)

自 平成21年4月1日  
至 平成21年6月30日

大和冷機工業株式会社  
E01961

# 目 次

頁

表 紙

## 第一部 企業情報

### 第1 企業の概況

1 主要な経営指標等の推移	1
2 事業の内容	2
3 関係会社の状況	2
4 従業員の状況	2

### 第2 事業の状況

1 生産、受注及び販売の状況	3
2 事業等のリスク	4
3 経営上の重要な契約等	4
4 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析	4

第3 設備の状況	6
----------	---

### 第4 提出会社の状況

#### 1 株式等の状況

(1) 株式の総数等	7
(2) 新株予約権等の状況	7
(3) ライツプランの内容	7
(4) 発行済株式総数、資本金等の推移	7
(5) 大株主の状況	8
(6) 議決権の状況	8

2 株価の推移	9
---------	---

3 役員の状況	9
---------	---

第5 経理の状況	10
----------	----

#### 1 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表	11
(2) 四半期連結損益計算書	13
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	15

2 その他	21
-------	----

第二部 提出会社の保証会社等の情報	22
-------------------	----

[四半期レビュー報告書]

## 【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成21年8月12日
【四半期会計期間】	第49期第2四半期（自 平成21年4月1日 至 平成21年6月30日）
【会社名】	大和冷機工業株式会社
【英訳名】	DAIWA INDUSTRIES LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 尾崎 敦史
【本店の所在の場所】	大阪市天王寺区小橋町3番13号
【電話番号】	06(6767)8171(代表)
【事務連絡者氏名】	執行役員 経理本部長 那須 元彰
【最寄りの連絡場所】	大阪市天王寺区小橋町3番13号
【電話番号】	06(6767)8171(代表)
【事務連絡者氏名】	執行役員 経理本部長 那須 元彰
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号) 株式会社大阪証券取引所 (大阪市中央区北浜1丁目8番16号)

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第49期 第2四半期連結 累計期間	第49期 第2四半期連結 会計期間	第48期
会計期間	自平成21年 1月1日 至平成21年 6月30日	自平成21年 4月1日 至平成21年 6月30日	自平成20年 1月1日 至平成20年 12月31日
売上高（千円）	14,402,339	7,794,944	32,138,051
経常利益（千円）	3,456,012	1,952,210	7,375,064
四半期（当期）純利益（千円）	2,576,076	1,379,250	5,194,280
純資産額（千円）	—	34,329,079	32,008,249
総資産額（千円）	—	44,764,834	39,197,107
1株当たり純資産額（円）	—	667.70	622.43
1株当たり四半期（当期）純利益 金額（円）	50.10	26.83	100.99
潜在株式調整後1株当たり四半期 （当期）純利益金額（円）	—	—	—
自己資本比率（％）	—	76.7	81.7
営業活動による キャッシュ・フロー（千円）	5,261,003	—	9,330,584
投資活動による キャッシュ・フロー（千円）	891,583	—	△1,195,658
財務活動による キャッシュ・フロー（千円）	2,240,099	—	△520,093
現金及び現金同等物の四半期末 （期末）残高（千円）	—	23,908,391	15,515,704
従業員数（人）	—	1,879	1,763

（注）1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり四半期（当期）純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

3. 当社は、四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

## 2【事業の内容】

当第2四半期連結会計期間において、当社グループが営む事業の内容について重要な変更はありません。

## 3【関係会社の状況】

当第2四半期連結会計期間において、重要な関係会社の異動はありません。

## 4【従業員の状況】

### (1) 連結会社の状況

平成21年6月30日現在

従業員数（人）	1,879
---------	-------

(注) 1 従業員数は就業人員であります。

2 従業員数が当第2四半期連結会計期間において195名増加したのは、主に新入社員の定期採用によるものであります。

### (2) 提出会社の状況

平成21年6月30日現在

従業員数（人）	1,879
---------	-------

(注) 1 従業員数は就業人員であります。

2 従業員数が当第2四半期会計期間において195名増加したのは、主に新入社員の定期採用によるものであります。

## 第2【事業の状況】

### 1【生産、受注及び販売の状況】

当社グループは、単一セグメントであるため、品目別ごとの生産・受注及び販売の状況を記載しております。

#### (1) 生産実績

区分	当第2四半期連結会計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年6月30日)
厨房用縦型冷凍冷蔵庫 (千円)	2,426,919
店舗用縦型ショーケース (千円)	1,570,633
横型冷凍冷蔵庫 (千円)	395,335
製氷機 (千円)	462,515
合計	4,855,402

- (注) 1 金額は販売価額の平均単価によっております。  
2 上記金額には、消費税等は含まれておりません。

#### (2) 商品仕入実績

区分	当第2四半期連結会計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年6月30日)
店舗設備機器 (千円)	315,950
厨房設備機器 (千円)	385,538
店舗設備工事 (千円)	30,812
合計	732,301

- (注) 1 品目のうち「店舗設備工事」は、店舗設計・設備機器を総合的に受注したもののうちクロス及びタイル貼り等の内装工事を施工業者に委託する際に発生する費用であります。  
2 上記金額には、消費税等は含まれておりません。

#### (3) 受注実績

当社グループは原則として受注生産は行っておりません。

#### (4) 販売実績

区分	当第2四半期連結会計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年6月30日)
製品	
厨房用縦型冷凍冷蔵庫 (千円)	1,943,451
店舗用縦型ショーケース (千円)	1,214,257
横型冷凍冷蔵庫 (千円)	580,402
製氷機 (千円)	477,202
小計	4,215,313
商品	
店舗設備機器 (千円)	725,314
厨房設備機器 (千円)	484,472
店舗設備工事 (千円)	33,419
小計	1,243,206
点検・修理 (千円)	729,566
リース料収入等 (千円)	1,606,857
合計	7,794,944

- (注) 1 品目のうち「店舗設備工事」は、店舗設計・設備機器を総合的に受注したもののうちクロス及びタイル貼り等の内装工事の販売金額であります。
- 2 総販売実績に占める割合が10%以上である販売先は、該当ありません。
- 3 上記金額には、消費税等は含まれておりません。

#### 2【事業等のリスク】

当第2四半期連結会計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。  
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

#### 3【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

#### 4【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

##### (1) 業績の状況

当第2四半期連結会計期間におけるわが国経済は、在庫調整の進展等から一部の産業に改善の兆しが見られますが、設備投資の減少、雇用・所得環境の悪化が継続するなど、引き続き厳しい状況が続いております。

当社グループを取り巻く環境につきましては、主要取引業種の外食産業にあっては、消費者の生活防衛意識の一層の高まりから外食控えの状況が継続し、食品業界や一般小売業等にあっては、価格競争が一層激化する状況が続くなど、引き続き厳しい経営環境にありました。

このような状況のなかで、当社グループは、競争優位性を高めるべく、環境に配慮した製品の開発、コスト競争力の強化、営業体制の強化を推進しつつ、既存顧客との相互信頼関係の構築、新規顧客の開拓、サービス体制の充実に取り組み、業績の維持向上に努めてまいりました。

当第2四半期連結会計期間における売上高は、7,794百万円、営業利益1,935百万円、経常利益1,952百万円、四半期純利益1,379百万円となりました。

## (2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、第1四半期連結会計期間末と比べて3,460百万円増加し、23,908百万円となりました。

当第2四半期連結会計期間における各キャッシュフローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

### （営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動により得られた資金は、2,556百万円となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益1,950百万円、リース投資資産の減少472百万円、仕入債務の増加274百万円、賞与引当金の増加206百万円などが、売上債権の増加686百万円などを上回ったことによるものであります。

### （投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動により得られた資金は、924百万円となりました。これは主に、定期預金の払戻による収入1,000百万円などが、有形固定資産の取得による支出69百万円などを上回ったことによるものであります。

### （財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動により支出した資金は、21百万円となりました。これは主に、配当金の支払額19百万円などによるものであります。

## (3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結会計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

## (4) 研究開発活動

当第2四半期連結会計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は、1百万円であります。

なお、当第2四半期連結会計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。



### 第3【設備の状況】

(1) 主要な設備の状況

当第2四半期連結会計期間において、主要な設備に重要な異動はありません。

(2) 設備の新設、除却等の計画

当第2四半期連結会計期間において、新たに確定した重要な設備の新設、除却等の計画はありません。

## 第4【提出会社の状況】

### 1【株式等の状況】

#### (1)【株式の総数等】

##### ①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	84,000,000
計	84,000,000

##### ②【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末現在発行数(株) (平成21年6月30日)	提出日現在発行数(株) (平成21年8月12日)	上場金融商品取引所名又は登録認可金融商品取引業協会名	内容
普通株式	51,717,215	51,717,215	東京証券取引所 (市場第一部) 大阪証券取引所 (市場第一部)	単元株式数 1,000株
計	51,717,215	51,717,215	—	—

#### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

#### (3)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

#### (4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数増減数 (千株)	発行済株式総数残高 (千株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増減額 (千円)	資本準備金残高 (千円)
平成21年4月1日～ 平成21年6月30日	—	51,717	—	9,907,039	—	9,867,880

## (5) 【大株主の状況】

平成21年6月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合 (%)
有限会社日本冷機	大分県佐伯市長島町2丁目22-12	6,337	12.25
有限会社ディ・アール・ケイ	大分県佐伯市長島町2丁目22-12	5,210	10.07
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海1丁目8-11	4,089	7.91
尾崎 敦史	大分県佐伯市	3,763	7.28
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	東京都港区浜松町2丁目11-3	2,677	5.18
尾崎 理恵	東京都港区	2,510	4.85
尾崎 雅広	大分県佐伯市	2,300	4.45
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口4G)	東京都中央区晴海1丁目8-11	2,143	4.14
尾崎 キミエ	大分県佐伯市	2,005	3.88
メロンバンク トリーティークライアンツ オムニバス (常任代理人 株式会社みずほコーポレート銀行兜町証券決済業務室)	ONE BOSTON PLACE BOSTON, MA 02108 (東京都中央区日本橋兜町6-7)	1,046	2.02
計	—	32,080	62.03

(注) 上記所有株式数のうち、信託業務に係る株式が次のとおり含まれております。

日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	3,970千株
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	2,672千株
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口4G)	2,143千株

## (6) 【議決権の状況】

## ① 【発行済株式】

平成21年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 303,000	—	単元株式数 1,000株
完全議決権株式(その他)	普通株式 50,916,000	50,916	同上
単元未満株式	普通株式 498,215	—	—
発行済株式総数	51,717,215	—	—
総株主の議決権	—	50,916	—

(注) 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が2,000株(議決権2個)含まれております。

②【自己株式等】

平成21年6月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
(自己保有株式) 大和冷機工業株式会社	大阪市天王寺区小橋町3-13	303,000	—	303,000	0.59
計	—	303,000	—	303,000	0.59

(注) 当第2四半期会計期間末日現在の自己株式数は303,320株であります。

2【株価の推移】

【当該四半期累計期間における月別最高・最低株価】

月別	平成21年1月	2月	3月	4月	5月	6月
最高(円)	314	308	370	364	396	459
最低(円)	273	284	286	325	329	396

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所市場第一部におけるものであります。

3【役員の様況】

前事業年度の有価証券報告書の提出日以後、当四半期報告書の提出日までの役員の異動は、次のとおりであります。

(1) 新任役員

該当事項はありません。

(2) 退任役員

該当事項はありません。

(3) 役職の異動

新役職名及び職名	旧役職名及び職名	氏名	異動年月日
常務取締役 常務執行役員 (法人担当兼製商品担当)	常務取締役 常務執行役員 (製商品担当)	小野 文男	平成21年6月1日
常務取締役 常務執行役員 (法人企画本部長兼地区法人営業本部長)	常務取締役 常務執行役員 (法人担当)	工藤 哲郎	平成21年6月1日
取締役 執行役員 (法人企画本部長兼地区法人営業本部長)	常務取締役 常務執行役員 (法人企画本部長兼地区法人営業本部長)	工藤 哲郎	平成21年6月6日

## 第5【経理の状況】

### 1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」という。）に基づいて作成しております。

なお、当連結会計年度の第1四半期連結会計期間（平成21年1月1日から平成21年3月31日まで）から、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」（平成20年8月7日内閣府令第50号）附則第7条第1項第5号ただし書きにより、改正後の四半期連結財務諸表規則に基づいて作成しております。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、当第2四半期連結会計期間（平成21年4月1日から平成21年6月30日まで）及び当第2四半期連結累計期間（平成21年1月1日から平成21年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

なお、監査法人トーマツは監査法人の種類の変更により、平成21年7月1日をもって有限責任監査法人トーマツとなっております。

## 1 【四半期連結財務諸表】

## (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成21年6月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成20年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	24,908,391	17,015,704
受取手形及び売掛金	3,538,764	4,108,987
リース投資資産	※2 2,546,524	—
商品及び製品	1,569,474	1,317,391
仕掛品	220,384	250,015
原材料及び貯蔵品	362,819	369,540
点検修理用部品	286,429	242,901
その他	850,551	865,065
貸倒引当金	△86,887	△88,232
流動資産合計	34,196,451	24,081,374
固定資産		
有形固定資産	※1 7,181,604	※1 10,919,998
無形固定資産	119,834	131,809
投資その他の資産		
投資有価証券	594,568	586,803
その他	2,872,308	3,651,763
貸倒引当金	△199,933	△174,642
投資その他の資産合計	3,266,943	4,063,925
固定資産合計	10,568,382	15,115,733
資産合計	44,764,834	39,197,107
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,503,010	2,556,285
短期借入金	2,500,000	—
未払法人税等	917,685	316,392
賞与引当金	626,192	130,418
その他の引当金	137,420	148,685
その他	1,746,706	2,075,476
流動負債合計	8,431,014	5,227,257
固定負債		
退職給付引当金	1,044,612	1,006,978
役員退職慰労引当金	925,370	912,763
その他	34,757	41,859
固定負債合計	2,004,739	1,961,601
負債合計	10,435,754	7,188,858

(単位：千円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成21年6月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成20年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	9,907,039	9,907,039
資本剰余金	9,867,880	9,867,880
利益剰余金	14,719,189	12,400,235
自己株式	△172,402	△168,868
株主資本合計	34,321,707	32,006,286
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	7,371	1,962
評価・換算差額等合計	7,371	1,962
純資産合計	34,329,079	32,008,249
負債純資産合計	44,764,834	39,197,107

(2) 【四半期連結損益計算書】  
【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

当第2四半期連結累計期間  
(自 平成21年1月1日  
至 平成21年6月30日)

売上高	14,402,339
売上原価	5,674,263
売上総利益	8,728,075
販売費及び一般管理費	※1, ※2 5,301,730
営業利益	3,426,344
営業外収益	
受取利息	18,694
受取配当金	1,306
その他	70,414
営業外収益合計	90,415
営業外費用	
点検契約解約損	12,380
スクラップ処分費	31,520
その他	16,846
営業外費用合計	60,748
経常利益	3,456,012
特別利益	
貸倒引当金戻入額	1,768
特別利益合計	1,768
特別損失	
固定資産売却損	※3 876
固定資産除却損	※4 1,024
特別損失合計	1,901
税金等調整前四半期純利益	3,455,879
法人税、住民税及び事業税	873,145
法人税等調整額	6,657
法人税等合計	879,802
四半期純利益	2,576,076



## 【第2四半期連結会計期間】

(単位：千円)

	当第2四半期連結会計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年6月30日)
売上高	7,794,944
売上原価	3,132,848
売上総利益	4,662,095
販売費及び一般管理費	※1, ※2 2,727,068
営業利益	1,935,027
営業外収益	
受取利息	8,111
受取配当金	1,034
スクラップ売却収入	10,312
その他	25,618
営業外収益合計	45,076
営業外費用	
スクラップ処分費	18,618
その他	9,275
営業外費用合計	27,894
経常利益	1,952,210
特別損失	
固定資産売却損	※3 876
固定資産除却損	※4 370
特別損失合計	1,247
税金等調整前四半期純利益	1,950,962
法人税、住民税及び事業税	571,487
法人税等調整額	224
法人税等合計	571,712
四半期純利益	1,379,250

## (3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

当第2四半期連結累計期間  
 (自 平成21年1月1日  
 至 平成21年6月30日)

営業活動によるキャッシュ・フロー	
税金等調整前四半期純利益	3,455,879
減価償却費	348,323
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	23,946
賞与引当金の増減額 (△は減少)	495,774
役員賞与引当金の増減額 (△は減少)	△7,300
製品保証引当金の増減額 (△は減少)	△3,965
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	37,633
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	12,607
受取利息及び受取配当金	△20,001
支払利息	4,834
固定資産売却損益 (△は益)	876
固定資産除却損	1,024
売上債権の増減額 (△は増加)	546,376
リース投資資産の増減額 (△は増加)	913,474
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△259,258
仕入債務の増減額 (△は減少)	△53,274
その他	△97,971
小計	5,398,978
利息及び配当金の受取額	21,408
利息の支払額	△4,834
法人税等の支払額	△278,324
法人税等の還付額	123,774
営業活動によるキャッシュ・フロー	5,261,003
投資活動によるキャッシュ・フロー	
定期預金の預入による支出	△1,000,000
定期預金の払戻による収入	2,000,000
有形固定資産の取得による支出	△94,547
有形固定資産の売却による収入	102
無形固定資産の取得による支出	△17,172
その他	3,200
投資活動によるキャッシュ・フロー	891,583
財務活動によるキャッシュ・フロー	
短期借入れによる収入	2,500,000
自己株式の取得による支出	△3,533
配当金の支払額	△256,367
財務活動によるキャッシュ・フロー	2,240,099
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	8,392,686
現金及び現金同等物の期首残高	15,515,704
現金及び現金同等物の四半期末残高	23,908,391

【四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更】

	当第2四半期連結累計期間 (自 平成21年1月1日 至 平成21年6月30日)
1. 会計処理基準に関する事項の変更	<p>(1) 「棚卸資産の評価に関する会計基準」の適用 当連結会計年度の第1四半期連結会計期間から平成18年7月5日公表の「棚卸資産の評価に関する会計基準」(企業会計基準委員会 企業会計基準第9号)を適用し、評価基準については原価法から原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)に変更しております。 なお、これによる損益に与える影響は軽微であります。</p> <p>(2) 「リース取引に関する会計基準」の適用 所有権移転外ファイナンス・リース取引については、従来、賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっておりましたが、「リース取引に関する会計基準」(企業会計基準第13号(平成5年6月17日(企業会計審議会第一部会)、平成19年3月30日改正))及び「リース取引に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第16号(平成6年1月18日(日本公認会計士協会 会計制度委員会)、平成19年3月30日改正))が平成20年4月1日以後開始する連結会計年度に係る四半期連結財務諸表から適用することができることになったことに伴い、当連結会計年度の第1四半期連結会計期間からこれらの会計基準等を早期適用し、通常の売買取引に係る方法に準じた会計処理によっております。</p> <p>(貸手側) リース取引開始日が会計基準適用初年度開始前の所有権移転外ファイナンス・リース取引については、会計基準適用初年度の前連結会計年度末における固定資産の適正な帳簿価額(減価償却累計額控除後)をリース投資資産の期首の価額として計上しており、会計基準適用後の残存期間においては、利息相当額の総額をリース期間中の各期に定額で配分しております。 この変更による損益に与える影響はありません。 なお、リース取引開始日が会計基準適用初年度開始の日以降の所有権移転外ファイナンス・リース取引はありません。</p> <p>(借手側) リース取引開始日が会計基準適用初年度開始前の所有権移転外ファイナンス・リース取引については、引き続き、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理を適用しております。</p>

【簡便な会計処理】

	当第2四半期連結累計期間 (自 平成21年1月1日 至 平成21年6月30日)
1. 一般債権の貸倒見積高の算定方法	当第2四半期連結会計期間末の貸倒実績率等が前連結会計年度末に算定したものと著しい変化がないと認められるため、前連結会計年度末の貸倒実績率を使用して貸倒見積高を算定しております。
2. 固定資産の減価償却費の算定方法	定率法を採用している資産については、連結会計年度に係る減価償却費の額を期間按分して算定しております。
3. 法人税等並びに繰延税金資産及び繰延税金負債の算定方法	繰延税金資産の回収可能性の判断に関しては、前連結会計年度以降に経営環境等、かつ、一時差異等の発生状況に著しい変化がないと認められるため、前連結会計年度において使用した将来の業績予測やタックス・プランニングを利用する方法によっております。

【四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理】

該当事項はありません。

【追加情報】

	当第2四半期連結累計期間 (自 平成21年1月1日 至 平成21年6月30日)
有形固定資産の耐用年数の変更	当社グループの機械装置については、法人税法の改正を契機に、当連結会計年度の第1四半期連結会計期間より耐用年数の見直しを実施しました。 これにより、当第2四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益は、それぞれ50,493千円減少しております。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

当第2四半期連結会計期間末 (平成21年6月30日)	前連結会計年度末 (平成20年12月31日)
※1 有形固定資産の減価償却累計額 11,211,381千円 ※2 資産の金額から直接控除している見積処分損相当額 リース投資資産 93,381千円 リース取引開始日が平成20年12月31日以前の所有権移転外ファイナンス・リース取引において、顧客の事故等のために将来のリース債権の回収が困難と見込まれるリース投資資産の見積処分損相当額について、四半期末リース投資資産残高に過去の処分損の実績等を加味した比率を乗じて金額を算定し、計上しております。	※1 有形固定資産の減価償却累計額 19,398,409千円

## (四半期連結損益計算書関係)

当第2四半期連結累計期間  
(自 平成21年1月1日  
至 平成21年6月30日)

※1	販売費及び一般管理費の主な費用及び金額	
	広告宣伝費	28,736千円
	運賃・倉庫料	491,700千円
	製品保証引当金繰入額	107,962千円
	報酬・給与手当	2,300,857千円
	福利厚生費	376,247千円
	賞与引当金繰入額	403,310千円
	役員賞与引当金繰入額	7,000千円
	退職給付費用	85,707千円
	役員退職慰労引当金繰入額	18,951千円
※2	一般管理費に含まれる研究開発費	4,407千円
※3	固定資産売却損の内訳	
	工具器具及び備品	876千円
※4	固定資産除却損の内訳	
	車輛運搬具	3千円
	工具器具及び備品	1,020千円
	計	1,024千円

当第2四半期連結会計期間  
(自 平成21年4月1日  
至 平成21年6月30日)

※1	販売費及び一般管理費の主な費用及び金額	
	広告宣伝費	15,921千円
	運賃・倉庫料	265,284千円
	製品保証引当金繰入額	57,869千円
	報酬・給与手当	1,212,422千円
	福利厚生費	186,190千円
	賞与引当金繰入額	168,322千円
	役員賞与引当金繰入額	3,500千円
	退職給付費用	41,329千円
	役員退職慰労引当金繰入額	9,346千円
※2	一般管理費に含まれる研究開発費	1,985千円
※3	固定資産売却損の内訳	
	工具器具及び備品	876千円
※4	固定資産除却損の内訳	
	車輛運搬具	3千円
	工具器具及び備品	366千円
	計	370千円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第2四半期連結累計期間 (自 平成21年1月1日 至 平成21年6月30日)		
現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係		
現金及び預金勘定	24,908,391	千円
預入期間が3か月を超える定期預金	△1,000,000	千円
現金及び現金同等物	23,908,391	千円

(株主資本等関係)

当第2四半期連結会計期間末(平成21年6月30日)及び当第2四半期連結累計期間(自 平成21年1月1日 至 平成21年6月30日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	発行済株式の種類	自己株式の種類
	普通株式	普通株式
当第2四半期連結会計期間末株式数	51,717,215株	303,320株

2. 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

平成21年2月20日開催の取締役会において次のとおり決議しております。

・普通株式の配当に関する事項

配当金の総額 257,122千円  
1株当たりの配当額 5円00銭  
基準日 平成20年12月31日  
効力発生日 平成21年3月30日  
配当の原資 利益剰余金

(2) 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間末後となるもの

平成21年8月11日開催の取締役会において次のとおり決議しております。

・普通株式の配当に関する事項

配当金の総額 257,069千円  
1株当たりの配当額 5円00銭  
基準日 平成21年6月30日  
効力発生日 平成21年9月10日  
配当の原資 利益剰余金

(セグメント情報)

【事業の種類別セグメント情報】

当第2四半期連結会計期間(自平成21年4月1日至平成21年6月30日)及び当第2四半期連結累計期間(自平成21年1月1日至平成21年6月30日)

当社グループの主たる事業は、業務用冷凍・冷蔵庫、ショーケース、製氷機の製造販売、店舗厨房用冷熱器等の商品仕入、販売並びに当該製品・商品の点検・修理であります。これら冷凍冷蔵冷熱機器に係る事業は取扱製品・商品の種類・性質・販売市場等が類似した単一事業であり、当該事業以外に事業の種類がないため該当事項はありません。

【所在地別セグメント情報】

当第2四半期連結会計期間(自平成21年4月1日至平成21年6月30日)及び当第2四半期連結累計期間(自平成21年1月1日至平成21年6月30日)

本邦以外の国又は地域に所在する連結子会社及び重要な在外支店がないため、該当事項はありません。

【海外売上高】

当第2四半期連結会計期間(自平成21年4月1日至平成21年6月30日)及び当第2四半期連結累計期間(自平成21年1月1日至平成21年6月30日)

海外売上高が連結売上高の10%未満であるため、海外売上高の記載を省略しております。

(有価証券関係)

有価証券の四半期連結貸借対照表計上額その他の金額は、前連結会計年度の末日と比較して著しい変動はありません。

(デリバティブ取引関係)

該当事項はありません。

(ストック・オプション等関係)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1. 1株当たり純資産額

当第2四半期連結会計期間末 (平成21年6月30日)		前連結会計年度末 (平成20年12月31日)	
1株当たり純資産額	667.70円	1株当たり純資産額	622.43円

2. 1株当たり四半期純利益金額

当第2四半期連結累計期間 (自平成21年1月1日 至平成21年6月30日)		当第2四半期連結会計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年6月30日)	
1株当たり四半期純利益金額	50.10円	1株当たり四半期純利益金額	26.83円

(注) 1 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 1株当たり四半期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	当第2四半期連結累計期間 (自平成21年1月1日 至平成21年6月30日)	当第2四半期連結会計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年6月30日)
四半期純利益(千円)	2,576,076	1,379,250
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る四半期純利益(千円)	2,576,076	1,379,250
期中平均株式数(株)	51,419,398	51,416,320

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

(リース取引関係)

該当事項はありません。

## 2 【その他】

平成21年8月11日開催の取締役会において、当期中間配当に関し、次のとおり決議いたしました。

- |                        |            |
|------------------------|------------|
| (イ) 中間配当による配当金の総額      | 257,069千円  |
| (ロ) 1株当たりの金額           | 5円00銭      |
| (ハ) 支払請求の効力発生日および支払開始日 | 平成21年9月10日 |
- (注) 平成21年6月30日現在の株主名簿に記載又は記録された株主に対し支払いを行います。



## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

# 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成21年 8 月 4 日

大和冷機工業株式会社

取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 川崎 洋文 ㊞

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 森村 圭志 ㊞

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている大和冷機工業株式会社の平成21年1月1日から平成21年12月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成21年4月1日から平成21年6月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成21年1月1日から平成21年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書及び四半期連結キャッシュ・フロー計算書について四半期レビューを行った。この四半期連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューは、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続により行われており、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べ限定された手続により行われた。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、大和冷機工業株式会社及び連結子会社の平成21年6月30日現在の財政状態、同日をもって終了する第2四半期連結会計期間及び第2四半期連結累計期間の経営成績並びに第2四半期連結累計期間のキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれておりません。